



例会報告 Rotary



イマジン
ロータリー

田中明高山市長卓話

- 例会日 毎週金曜日 12:30~13:30
- 会長 垣内 秀文
- 例会場 高山市花里町3-33-3 TEL 34-3988
- 幹事 大村 貴之
- 大垣共立銀行高山支店 4F
- 会報委員長 中島 一成

<会長の時間>

現在ワールドカップが開催されているカタールのドーハにて、今から遡ること29年前1993年10月28日に行われたサッカーのワールドカップ米国大会アジア地区最終予選で、本大会への初出場をかけてイラク代表との最終戦に臨んだ日本代表チームが後半ロスタイムに失点しました。



日本代表はリーグ首位で最終戦を迎え、勝てば他チームの試合結果にかかわらず、翌年開催される本大会に出場できるはずでした、後半45分を経過した時点で日本代表は2対1でリードしていましたが、試合終了直前のロスタイムに同点となるゴールを決められ得失点差で3位に転落し、本大会への出場権を逃す結果となりました。

これが有名な『ドーハの悲劇』です、では何故こんなに取り沙汰されたというのもJリーグも同じ年の5月に開幕していたこともあり、スターティングメンバー; GK (ゴールキーパー) . 松永成立; FW (フォワード) . 中山雅史、三浦知良; MF (ミッドフィルダー) . 森保一、ラモス瑠偉等々錚々たるメンバーで現在もサッカーに影響を与えている方々が揃っていたことが、これまで以上に注目されたサッカー界で初の国際大会がワールドカップだったわけです、試合が行われたのは22時から0時15分、深夜の放送でしたが平均視聴率は48%越え、民放も合わせると国民の半数以上が視聴していたということになります。日頃からサッカーの試合を観戦するほどの愛好家ではありませんが、ワールドカップともなると俄かにサッカー熱が高まります、故に落胆も大きかったです

終了間際に同点に追いつかれた選手たちは天国から地獄の結果にただ呆然とし、うずくまっています。たった1人、ベンチにいるオフト監督は大きな身振りで試合終了まで訴えていましたが、選手たちの戦う気力はもう誰ひとり残されていませんでした。

これに対しマレーシアのジョホールバルで1997年11月16日に行われたサッカーのワールドカップ、フランス大会アジア第3代表決定戦で、日本代表がイラン代表に勝利し、翌年開催される本大会への初出場を決めたことを指す言葉が『ジョホールバル』の歓喜です、試合は2対2でゴールデンゴール方式による延長戦(前後半各15分)に突入り日本代表は後半13分に決勝のゴールを決めました。

話は変わりますが問題のドーハの悲劇で本大会出場を阻まれた時間は当時ロスタイム(失われた時間)と呼ばれていました、主審の判断で時計が止められる時間、交代や負傷者が出た際に"失われた"時間を、実際のプレー時間から引いて両チームに公平になるようにしようというものです。これは実際プレーした時間を基準に"失われた時間"つまりロスタイムを引いてちょうど90分という考え方です。一方、「アディショナルタイム」の方は「Additional=加えら

れた」時間ですから、あくまでもキックオフから90分、そこから加えられる時間という目線です。「ロスタイム」と「アディショナルタイム」どっちでも同じじゃない？私はそう思ったりしますが、子どもたちにアディショナルタイムを浸透させることで、また違った考え方が生まれるかもしれません。サッカーに限らずスポーツの世界では「ポジティブシンキング」が前向きなチャレンジを生むことがよく知られています。試合終了間際に「もう時間ないぞー」と声をかけるのか「あと2分はあるぞー」と声をかけるのか。アディショナルタイムはまさに加えられた時間、90分から新たに加わったボーナスタイム、加えて想像タイムだと思います

ここでまとめていきたいと思います。2022-23年度RI会長ジェニファー・ジョーンズさんの言葉を改めて紹介します。「想像してください、私たちはベストを尽くせる、私たちは朝目覚める時、その世界に変化をもたらせると知っています。昨日のことをイマジン(想像)するは人いません、それは未来を描くことです。

どうかこの大切な時間を子供たちに有効に使ってほしいものです、その大切な時間を大人たちは与えていくべきです、我々ロータリアンにも一人ひとりに同じ時間が与えられています、大切なのは個人がその与えられた時間をどう使うか、どう生きるかということを想像し、それを実行するかなんだよな〜と考えた1週間でした。

<幹事報告>

◎RI日本事務局より

・12月のロータリーレートについて 1ドル 138円(11月148円)

◎地区事務所より

・D. E. I会議(11月26日) 服部陽子様 ご講演ppt資料

◎ロータリーの友委員会代表理事より

・2021-22年度事業報告

<受贈誌>

東京紀尾井町RC(会報)RI日本事務局(財団室NEWS2022年12月号、疾病予防と治療月間リソースのご案内)、中部盲導犬協会(機関誌NewHarness)

<出席報告>

出席	Make-Up	出席者数	会員数	出席率
29名	-	29名	36名	80.56%

例会報告

<本日のプログラム> 田中 明 高山市長 卓話 堺 和信

投票日僅か1か月前に自民・公明党の推薦を受け出馬を表明し、過去最多4人の立候補者による選挙で、有権者7万970人、投票率64.87%で1万9815票を獲得し高山市長になられた田中明さんを紹介いたします。



田中明市長は、大学卒業後東京都内の商社に勤務され、昭和62年に高山市役所に入庁されました。企画部長、海外戦略部長を歴任され、昨年に定年退職されました。退職後インバウンド誘客事業を手掛ける旅行会社「シージェット」を立ち上げたほか、今年5月には飛騨・高山コンベンション協会専務理事を務めておられました。

田中市長さんとは、以前住まいが同じ学校区で、お子さんが3人おられまして長女同士が同級生、長男同士も同じ年に高山市役所に入庁しています。ということで、平成15年に東山中学校で私がPTA会長を務めたときに田中市長さんに「ほっとくとだちかんどかまってやらにゃ」の頭の文字をとった『ほだか委員長』を務めてもらいました。その2年後に田中市長さんもPTA会長を務められ、4年間PTA活動をご一緒させていただきましたが、お酒はあまり強くありませんで、すぐに真っ赤な顔になられます。物腰が柔らかく、大変まじめな方で、統率力があり、自分で決めたことはきっちりやられるタイプで、今後の高山市政に期待したいと思います。



高山市長 田中 明 様

高山西ロータリークラブの皆様におかれましては、それぞれの分野でご活躍をされておられ、私が20代の頃からずっとお世話になっている方もおみえになられます。このような場所で私の話をして良いのかと思うぐらい緊張しております。

伝統のある高山西ロータリークラブでお話をさせていただく機会を与えていただきまして誠にありがとうございます。

会長もお話されましたが、冒頭に私もワールドカップサッカーのスペイン戦のお話をさせていただきます。私も4時ちょっと前に起きてテレビ中継を観戦しました。堂安選手のシュートは凄かったです。「あのようなシュートを打てる日本人のプレーヤーが誕生したんだ」と、本当に痺れました。最後のアディショナルタイムが長くあり、ドキドキしながら観ていましたけど、私としては日本代表のディフェンス力ならおそらく点は取られないものと思いつつ、多少安心して見ていられました。

ドイツ戦も含め三戦とも観戦いたしました。戦術によってここまで違うのかというくらい、その違いがよくわかる試合だったと思います。今回のワールドカップを観戦させていただいて、やはり采配によりこれだけ違うということを実感しました。

市職員にも話しましたが、これは市長ということでもなく、それぞれの部署の担当あるいは管理職の皆さんが、少し采配を変えるだけで、少し考え方を変えるだけで、全く違う攻め方・守り方ができるということを実感したワールドカップです。決勝トーナメントのクロアチア戦も午前0時からでしたが、しっかり起きて観戦させていただきたいと思っています。

なお、先ほどからこの会場で私も大好きなジョン・レノンの曲がずっとBGMとして流れていましたので、少し落ち着いてお話をさせていただけるとと思います。しばらくの間お付き合いのほどよろしくをお願いします。

私をご紹介いただきましたように、元々市の職員で最後の10年間は海外戦略や企画といった部門におりまして、そのイメージが強いかと思いますが、実は國島前市長の下で最初に管理職を経験したのが支所地域の地域振興課長でした。その時に初めて地域の方と一緒に色々と取り組ませていただいたことが、どちらかという私のバックグラウンドにあります。皆様もご自分の時間、あるいはご自分の生業の時間を削りながら、ロータリークラブという場で社会奉仕しておられます。それは地域の方々も同じでした。地域の方々のお話を聞いていると、もっと市役所の職員が地域の中に入って、直接お話を聴いて、それを如何に政策に結びつけていくかということが、市役所職員に求められる役割であるということを実感しました。例えば「子どもの通学に暗くて不安なので防犯灯を付けて下さい」という要望をお伺いします。要望に対応させていただくと、次はこっちでも付けてくれとなります。何を申し上げたいかというと、本当に防犯灯を付けることだけがそこに住んでおられる方々の不安の解消に繋がっているのかということです。そのご要望の裏にある本当の行政課題は何であるのかということを読み取って、それを政策として打ち出すのが、市職員の仕事だということその時に初めて実感いたしました。

私はずっと長い間市役所に勤務しておりましたので、行政はどう回るのか、議会がどう回るのか、行政がどのような予算を組むのか、どのように執行するのかをよく知っています。ただ、例えば介護の細かい制度の部分であるとか、上水道の技術的なことであるとか、道路を整備する時の設計であるとかについては、ほとんど分かりません。今も同じです。一方で自分の得意な分野もあり、詳しく知っている部分においてそれをどう回すかは知っています。その中で、最初に申し上げたい大切なことだと思うのは、市長の仕事というのは、自分であれやりたいこれやりたいと考えても、予算的な部分においても出来る部分は本当に限られています。学校は改修しなければいけないですし、上下水道の整備もしなければなりません。当然、道路も橋も災害があれば対応しなければなりませんから、本当にやらなければいけないことは山積みであっても、市長になってできる部分は少しなのです。私はその少しの部分に全力を注ぐというよりは、大半の部分でやり方を変えていきたいと考えています。例えば今年台風14号が発生した際、日本海側を通過するような状況になるので、本市はどうしても風が強くなるという予測がありました。風は吹くものの家屋が倒れる程ではなく、また、警報になるような雨になるかもしれないが洪水になる程は降らない、災害対策本部を立ち上げる程ではないという状況でした。ただそれでも、念のため事前に避難所を開設させていただきました。また対策や対応を考える中で、小中学校では例えば朝5時に暴風雨警報が出ていたら休校にするというような決めています。私は翌日の休校を

例会報告

指示した訳ではありませんでしたが、「保護者の方々が一晩中どれだけ気を揉まなければいけないか、そういうことを考慮して判断してください」と教育委員会事務局に話をしたら、夕方の17時位には翌日の休校が決まりました。結局、台風による大きな影響はありませんでしたが、その一言の判断で保護者の方々の「明日もし子どもの学校が休校になったらどうしよう」「もし学校行くんだったらどうしよう」「自分の仕事をどうしようか」など、そういう心配や悩みを無くすことができました。こういう小さな市民生活における心配を排除することの積み重ねも行政の役割だということを市民の皆様と接して感じたことの一つです。

そして、私がまだ海外戦略部長であり退職する1年くらい前のことですが、新型コロナウイルス感染症が始まった時に、岐阜県で対策本部会議が開かれて、厚い資料が届くわけです。その時の海外戦略の部下職員は6人位でしたが、この資料を私が確認して部下職員に回覧したところ、どう考えても内容を確認するのに一人10分は必要なのに、10分で全員の確認印が押されて私のところへ戻って来ました。きちんと読んで内容を把握していないということです。私は部下職員に言いました。「あなた方はいいよ。給料貰えるし、ボーナス貰えるし、一ヶ月後、三ヶ月後、一年後、どうなっているかって心配しないでしょ、生活安定しているから。しかし、緊急事態宣言が出て、市民の皆さん外出控えましょう、飲食店や沢山の人が集まる所は閉めましょうという話で、おそらく事業者の方々は寝汗をかくくらい、一週間後、一ヶ月後、半年後のことを心配しておられる。あなたたちはそういうことをしっかりと想像して仕事をしてください」と。この様な気質を私は変えていこうと思っています。市職員は、物事を考えて組み立てると、そういう面では本当に優秀だと思います。しかしながら、市民生活の色々な事象をしっかりと捉えて思いを馳せるということについては、これまで役割として認識がうすいのです。これまで私も市役所で仕事をさせていただく中で、どういった考え方で職員が仕事をしているのかをよく知っていますので、変えていけると思います。少し時間がかかるかもしれませんが、私が市長でいる間に「わあ！市役所って変わったんだな！」と実感していただけるような高山市役所にするをお約束させていただきます。

そしてもう一つ感じたのは、行政はお節介なことはしない方がよいということです。例えば市の職員も事業に携わっている方の為になるかどうかをきちんと考えていますが、行政側の考えで民間の方々あるいは団体の方々とお付き合いしますと、最初は良いのですが、1年2年経つと関わっておられた方々が疲れてしまうのです。「もうそんなことできない」「続かない」そんな事例をたくさん見してきました。特に経済行為が伴うような観光であるとかブランド戦略、あるいはそれぞれ得意としてやっておられるスポーツや文化といった活動に対しては、方向を同じにしたうえで、思い切って委ねるべきでないかと私は考えています。もちろん、色々な考え方があり、そういう能力を行政が持たなければならぬと言う方もいらっしゃると思いますが、株式会社高山市として、高山市の行政を動かそうとするのではなく、例えば経済行為や文化団体、スポーツ団体にそれらの分野を委ねていくことのほうが、よほど血の通った政策ができるのではと考えています。その部分ができれば市長なのではないかと考えています。特にこのコロナの3年間、本当に市民及び事業者、団体の皆さんは大変な思いをされました。これまで不況下においては、例えば、金融を緩和したり引き締めたり、金融政策で凌いできた部分があったと思われませんが、今回のコロナによる経済への影響というのはこれまでと様相が違い、高山市の場合も人の交流が全く途絶える中で、特にその部分に関わる業種の方々にピンポイントで影響があったということと、それが波及する先の方々にもやは

り少なからず影響がありました。そこで何をしなければならぬかということ、国や県、市町村の財源を注ぎ込んで何とか持たせようとする財政出動しかありません。しかしそのようなことを長く続けられないので、今政府もようやく重い腰を上げて、賛否両論あるのですが、新型コロナウイルス感染症を季節性インフルエンザ感染症と同等にしたらどうかといった議論も出てくるものと思っています。しかしながら、円安・物価高の影響があります。これらは高山市役所がどれだけ頑張っても止めようがないと思っていますので、そういったところにエネルギーを使うよりは、これまで住民の方々と接する中で感じてきたことですが、例えば新しく取り組んでおられることに少しでも後押しがあれば生業に出来るという場合に支援を行い、小さい生業を作っていただき、その生業が個々に成り立つようなことに支援をしていきたい。これは財政的な支援以外にも色々な方法があると思いますが、要するに、小さい成功例をたくさん作っていった、底上げをする方が効果のあるものと私は思っています。私が地域振興で学んだことですが、皆さんそれぞれの地域で暮らし続けるのがどれだけ大変かということで、少なくとも余計な心配をしないで暮らしたいよう、その余計な心配を取り除くのが行政であり、そこに行政は軸足を置かなければならぬと考えています。

私は派手なことをするつもりはありません。おそらく「これをやります！」なんてことは言わないです。実務派の市長でいたいと考えています。また、私が今回の市長選挙で一番良かったと思ったのは、住民の方々の顔を至る所で直接拝見できたということです。若者や高齢者の方からお声をいただくと、サッカーのワールドカップではないですが「頑張ろう！」って気持ちになります。行政の役割は住民の方々の福祉の増進です。それ以上でもそれ以下でもないのです。それに繋がらないものは行う必要が無いと考えますし、それに繋がるものはとことんやらせていただきたいと考えています。

なお、観光は市内経済の基軸です。高山は観光地であり多くの観光客の方がおみえになられますが、通常の観光資源のない中山間都市の姿は、コロナ禍の人のいない高山と同じであるのです。ただ、高山市は昭和30年代から観光を基軸の産業としてずっと取り組んできたのです。私は海外戦略部長を担当していた時に、インバウンドということで色々な所に出向き話をしてきましたが、最後にお話しすることがありました。高山市が他の地域と異なるのは、高山ではずっと前から、遠方から来ていただいたお客様に対して施しをします。宿泊施設であればおもてなしを、飲食店であれば笑顔を、一般の方々には道案内を行っていただいています。その施しをすると、施しをされた側の方が「どうもありがとうございます」と心から喜ばれて、その喜びに喜ぶのが高山市民のDNAなのかもしれません。本日はサッカーの話ばかりで申し訳ありませんが、人は応援があってアドレナリンが上がって頑張りますよね。音楽家の方々も拍手をいただき次に繋げようとして更に士気を高められます。そういった気質が高山の方、飛騨地域の方にはあるのです。高山市民のDNAであるから外国人も快く受け入れていただいているのです。外国人への対応は本当に大変なことと思っています。言葉も分かりませんし、食べ物も好き嫌いのほか、宗教的な制限があることもあります。お会計の時も一人ひとりでお支払いするようです。でも高山市にはそういった方々を受け入れる土壌があるのです。観光客を受け入れようとしている他の都市に「あなた方はそれが出来ますか」とお伺いします。簡単にできると思われがちですが、それが出来ないと絶対に海外の方々を受け入れることができないのです。このような土壌が高山市にあるからこそ、これまで観光という分野でクローズアップされてきたのです。そして観光は、本当はもっと裾野広く幅広い分野で、例えば郷土教育であるとか、あるいは障がい者の受け入れであるとか、そういったところに波及しているはずなのです。これ

例会報告

は市役所の責任だと思いますが、これまで観光ばかりと思われるような政策を展開してきたから良くなかったものと考えています。もっと市民の方々に高山市の特性をしっかりと認識していただきながら、「このようなことから高山市に人が来るのですよ」あるいは「高山市に人が来ることはこういうことなんですよ」ということをしっかりと説明してこなかったから、観光有りきと言われるのです。観光は基幹産業としてしっかりと取り組ませていただきながら、これから改善しようと考えています。

また、医療も福祉も子育ても、道路がなければ成り立ちません。除雪していないと学校に通えないですし、橋が壊れたら通勤も出来ません。上下水道がなかったら水も飲めないですし排水も出来ない。社会インフラがしっかりしているからこそ、福祉や子育てにも目を向けることが出来るということです。優先順位がどちらということはありませんが、もっと市民の方に知っていただきたいと思っています。

合併前の平成16年に大きな災害があり、清見地域でかなりの浸水がありましたし、また、三枝地域で一人の方が行方不明になったこともありました。後に川上川をしっかりと改修しました。その改修した結果、その時より雨が降ってもあふれないのです。私は江名子川の近くに住んでいますが、現在も改修工事を行っています。以前は雨が降ると憂鬱で仕方ありませんでしたが、今は全く心配していません。これらの整備には高山市だけではなく、国や県からも大きなお金が費やされています。また、多くの人が働いてみえます。これまでもずっと行われて来ていた訳ですが、住民の方にはそういうことは分かりにくいのです。また、除雪をしっかりとすることは当然ですけど、そこにどれだけの方が携わっているのかということも、福祉や医療、介護などと同じレベルで伝えていかなければなりません。そうすることでより住民の方々に理解を得ながら行政を進めていくことが出来るものと考えており、結果的にそれが住んでおられる方々のちょっとした幸せや生業に繋がると私は思っています。

「これをした」「あれをした」とはならない地味な市政になるかと思えます。しかし、来年度、再来年度、市役所が変わったことをじわじわと実感していただけるように、しっかりと取り組ませていただきます。これから色々な壁にぶつかるかもしれませんが、そのときはサポートをしていただきたく最後にお願いしまして、私の話とさせていただきます。本日はありがとうございました。

<ニコニコボックス>

●垣内 秀文さん、大村 貴之さん

高山市長 田中 明 様、公務でお忙しい中ご来訪ありがとうございます。本日の卓話を楽しみにしております。よろしく申し上げます。濃飛グループガバナー補佐 奥村 幸夫 様、ご来訪ありがとうございます。ご指導よろしく申し上げます。本日はクラブアッセンブリーです。各部門長の皆さん、発表をよろしく申し上げます。

●狹土 貞吉さん

- ・田中明高山市長様のご来訪大歓迎です。卓話楽しみです。今娑婆は大変です。この厳しい折、舵取り大変かと思えます。明るい社会、豊かな街づくりのため、御身大切にして頑張ってください。陰ながら応援しています。
- ・先般岐阜において我が社の職人2人が左官ポンプにて技能検定、成績優秀者表彰を受賞してきましたので、その喜びをニコニコへ。

●阪下 六代さん

田中明高山市長様、本日はご来会誠にありがとうございます。後ほどの卓話を楽しみにしています。

●塚本 直人さん

いよいよ飛騨にも雪が降りそうです。皆さん暖かくして冬に向かいましょう。本日のゲスト田中市長のご来訪を大歓迎いたします。市役所海外戦略部長時代より、高山市との連携協定ではお世話になっています。これからもご協力をお願いします。卓話もとても楽しみです。

●下屋 勝比古さん

結婚記念日に記念の食事に娘と行って来ました。ありがとうございます。初孫が1歳になりました。まだ大泣きされますが、可愛らしくなって来ました。

●井口 大輔さん

11/23今年度第1回目のはぐるま会が土砂降りの雨の中決行されました。参加して頂きました松田さん、富岡さん有難うございました。結果88で人生初のバスグロ優勝させて頂きました。調子に乗った11/26の某寄合コンペも優勝で2連勝。ささやかですが幸せのお裾分けをニコニコに。時代が来たと思つて向かった翌11/27はやっぱ108。煩惱でした。

●水梨 弘基さん

サッカー日本代表の勝利に勇気と感動を頂きました。ブラボー！！

●田近 毅さん、内田 幸洋さん、斎藤 章さん、古橋 直彦さん、米澤 久二さん、田中 武さん、遠藤 隆浩さん、堺 和信さん、鴻野 幸泰さん、向井 公規さん、下屋 勝比古さん、井口 大輔さん、中島 一成さん、富岡 恒重さん

田中明高山市長のご来訪をお待ちしていました。心より歓迎いたします。この夏の激戦から3カ月が過ぎ、そろそろ田中カラーをピンバシ打ち出して頂く所ではないでしょうか？本日は短い時間ではありますが、あんななお話を沢山聞かせて下さい。また、ぜひ高山西クラブへの仲間入りをお待ちしています。さて、今朝早くから競合スペインに勝利した大騒ぎのサッカーワールドカップですが、次のクロアチアでも頑張ってください。